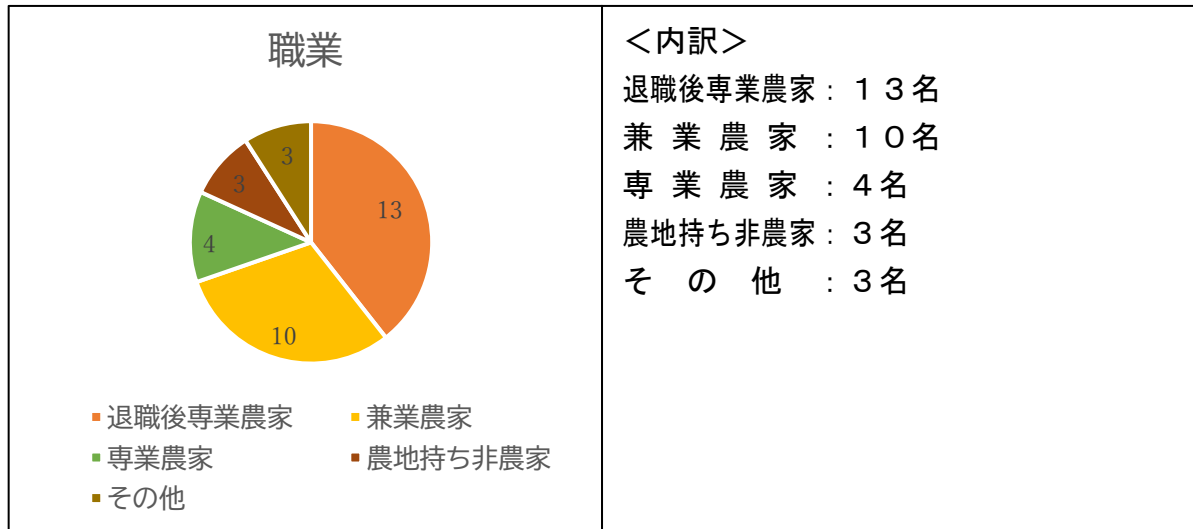


【東海平(田エリア)令和5年度2回目座談会参加者アンケート 結果】

実施日:令和6年1月23日(火)

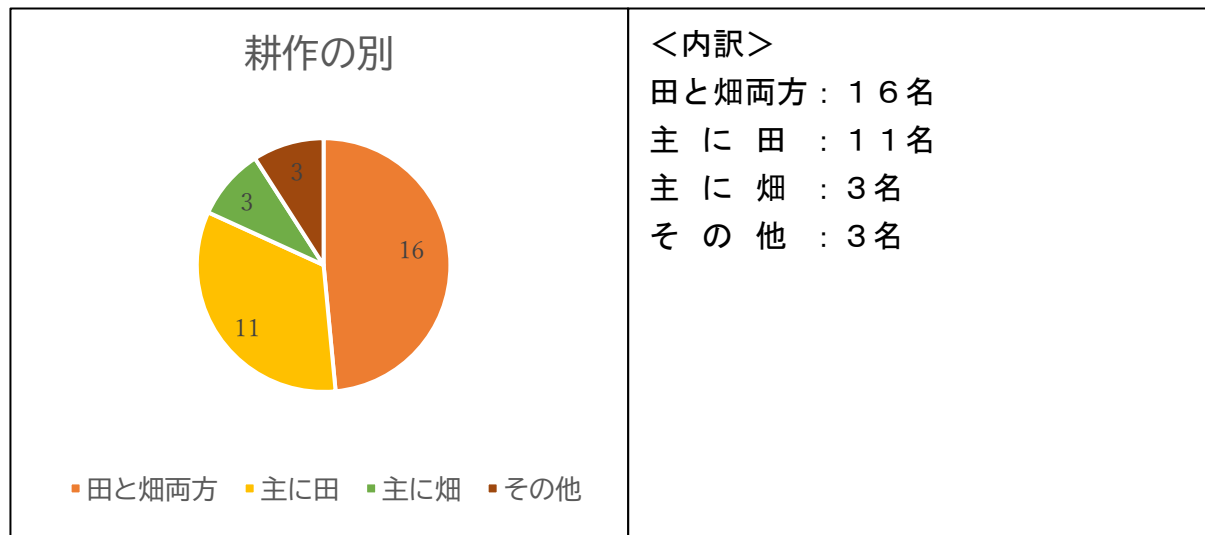
アンケート回答者:33名

■1 座談会参加者の職業



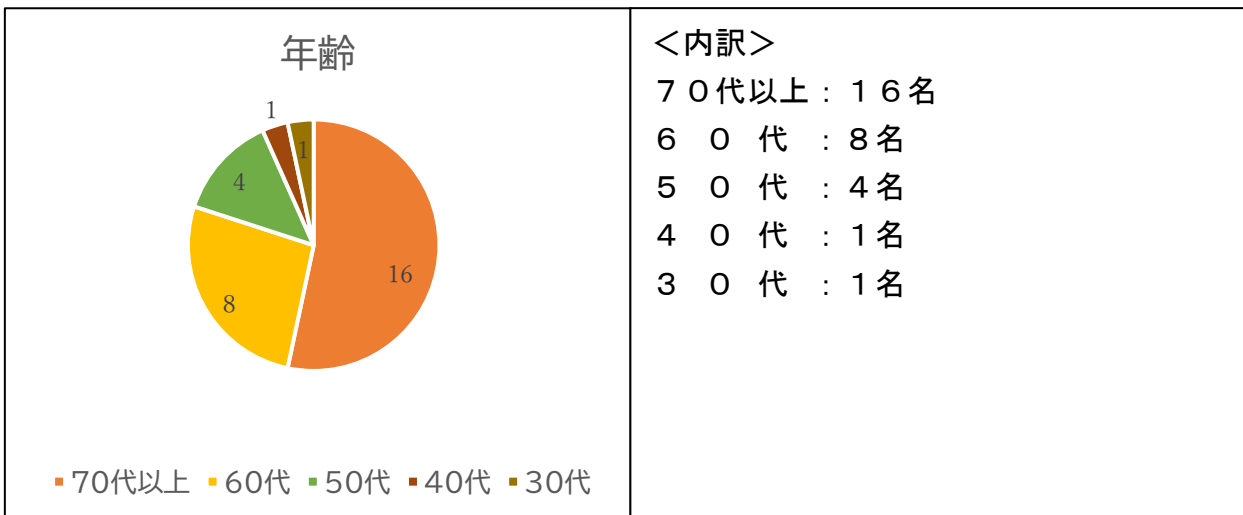
⇒退職後専業農家の方の参加が多かった。

■2 座談会参加者(農家の方)の耕作の別

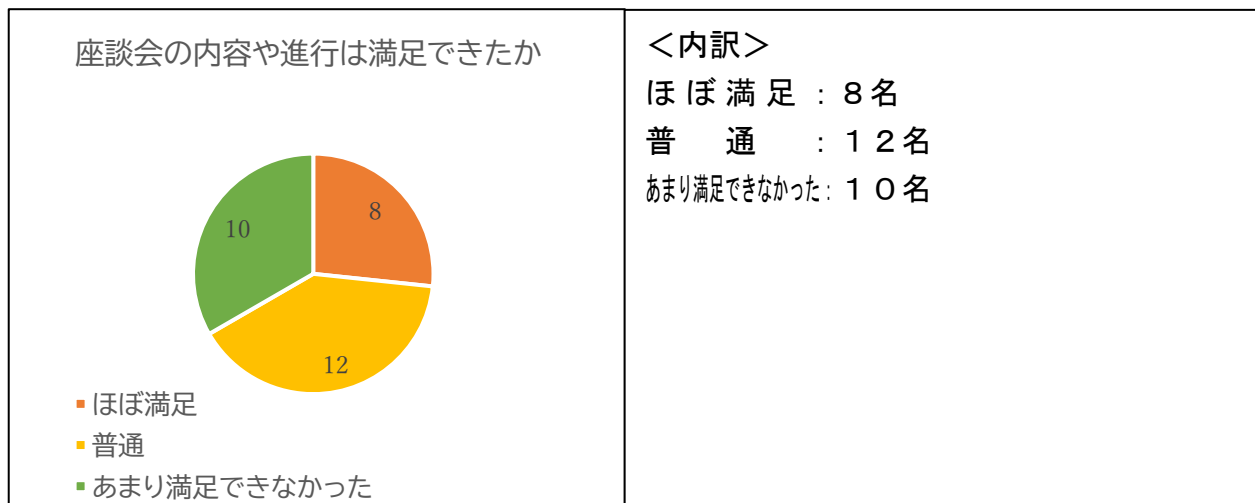


⇒「田と畑両方」を耕作している方の参加が多かった。

■3 参加者の年齢



■4 座談会の内容や進行は満足できたか



⇒参加者の多くが「普通」,「あまり満足できなかった」だった。

<意見>

- ・班の人数が多すぎて話がバラバラになった。
- ・1回目とグループをわけたため、まとまることもまとまらなくなった。
- ・班内の話し合いが多すぎてよく見えなかった。
- ・グループ数が多いのでは。(半分の5～6人がベストでないか。)
- ・難しい問題だったので司会も大変だったと思う。
- ・まず地区での話し合いが必要では。
- ・エリアの意見をまとめることに固執し、小エリアでの実態を把握せぬまま検討が行われた。
- ・班の人数が多く、話の集約に苦労していた。
- ・テーブルが大きすぎて話が聞こえない。「そもそも論」から始まって議論にならない。

■5 座談会で示された計画の内容等についての意見

- ・現状把握をして対応すべき。
- ・農地基盤, 湿田に行政から出る土を投入するなどの行政の支援。
- ・若い方が農業に従事する方策を考え実行しないと, このままでは尻つぼみになってしまう。支援策の充実が必要。
- ・地域での話し合いを村がリードする。
- ・30ha の規模の農家を育てる魅力ある収入, 農業をモデルとして示すことが新規就農者の参入, 育成に役立つと思う。
- ・積極的に議論ができた。
- ・中身も濃い話し合いができた。
- ・状況が分からない中で地図化は難しい。
- ・各地権者を集めた説明会が先です。地権者の意向が分からない。
- ・今回の出席者のみでは勝手なことは言えない。
- ・担い手を中心に集積・集約化で良いと思っているのですが, 実際に集約する際に農政課, 農業委員会, 土地改良区等で横のつながり(連携)をしっかり持っていただきたい。各部署から同じ内容で問い合わせが来たり, 似たような手続きを取ることが多いので。
- ・長テーブルでしたので遠席の声が聞こえなかった。2グループに分かれた感じだった。
- ・土地の集約に関しても, その他のあらゆる実践的な事案はリーダーが対処する。指示役が大事。
- ・目標値 66%を達成するため, 今後具体策を出していく必要があると思う。
- ・東海村が実現可能な他地区の成功例の紹介が必要。
- ・農研機構の話聞いて地域活性化としての1つと考えても良いかもしれない。
- ・ミーティングテーマが「土地集約して誰かにやらせるには?」ということなのがとても気になる。結論ありきで誘導のための座談会と感じてしまう。

■6 その他の意見, 今後の座談会についての意見

- ・情報提供の説明が理解できなかった。
- ・資料を読んでいるだけではついていけない。
- ・最初から方向が決まっているのであれば最初から出してほしい。
- ・グループの人数が多すぎてまとまらなかった。
- ・地域での座談会が必要。
- ・地主に関心を持ってもらうことが必要。
- ・組合員でエリアごとに議論して合意形成を図ることがポイント。
- ・農業経営の問題はあげられるが, 農業の将来を考えた行政の対応, 場合によっては太陽光発電も選択し, 村に取り入れ, 農地の原野化を防ぐ。
- ・大規模化しなければ収益が上がらない農業では将来リスクを抱える高齢化で亡くなる方もおり, ぽっかりと穴があくことがある。

- ・パンの消費は増えており、米粉に向けた品種の拡大、地域でのブランド化、JA での買収等の検討や輸出米の復活等付加価値をつける必要がある。
- ・担い手、貸し手、借り手の見える化をした方が良いという意見が出た点は良かったと思う。
- ・主旨が分からない、役場としてはどうしたいのか、等の意見が多かったので、なかなかかみ合っていない印象だった。
- ・もうかる農業でないと担い手はいない。
- ・「こんなことも考えます」、「こんな技術があります」と紹介を受けても、個人では投資できるレベルの額ではない導入額に感じる。